

カンボジアJICA プロジェクト 参加報告

私は2012年初めに、短期専門家としてJICAの「助産能力強化を通じた母子保健改善プロジェクト」に参加して、カンボジアの首都プノンペンの国立母子保健センター病院で産婦人科医師として活動しました。わずか2カ月ですが貴重な経験をさせていただきましたので、ご報告させていただきます。

JICAという名前は、皆様も一度は耳になさったことがあるかもしれませんが、「日本国際協力機構」の略称で、日本国政府が途上国や国際機関に援助を行

国立母子保健
センター病院
正面玄関にて



教材・スライドの
検討を病院の医師
達と行う



う際の実施機関であり、医療に限らず世界中で様々なプロジェクトを実施しています。

アンコールワットという美しい世界遺産を持つことで有名なカンボジアは、1980年代まで続いた内戦のため、経済は破綻し教育・保健システムも大打撃を受けました。

現在は平和な国となり経済発展も著しいのですが、内戦時代の「負の遺産」はまだ残っています。医療についても病院の建物や物資・機材といったハード面の不足はもちろんですが、特に医療システムとそれを支える人材が不足しているのです。そこで、モノやお金の支援だけでなく、システムの構築や人材育成を支援することでカンボジアの医療の発展に協力していこうと、JICAは取り組んでいます。

私が派遣された国立母子保健センター病院は、カンボジア最大の国立産科病院として、年間6000件の分娩（平均1日16件お産があるということ、日本にはこれほど分娩数の多い病院はありません）を扱うだけではなく、高次機能病院として近隣の病院・診療所から重症患者も受け入れています。さらに、ここが産科医療教育センターにもなっているため、全国から集まってくる卒前・卒後の医師・助産師の産科教育の実施機関にもなっ



医師
西野 りり子

います。従って、とにかく人が多く（患者も医療従事者も学生も！）忙しい！病院でした。

私の参加した「助産能力強化を通じた母子保健改善プロジェクト」では、「根拠に基づいた医療」すなわち「新しい、しかし正しい裏付けのある知見に基づく医療」を産科医療従事者に普及することを目的の一つにしていましたから、私の役割は、プロジェクトの一員として、この病院で「産科卒後教育の適切な教材を作る」ということでした。

目的は大きいのですが、実際に私ができたことは「パワーポイントでの産科講義スライド作り」というその中のごく一部で極めて単純なことでした。

しかし、臨床に携わるカンボジアの現役医師や助産師がよく分からないことや、本当に知りたいことは何かを確認し、基本を理解してもらえ教材を作ること、新しい知識を分かりやすく伝えることは、実は大変難しいことです。病院の医師や助産師達と話し合いを重ね、試行錯誤を繰り返してスライドを作成しました。私はパソコン操作がスイスイできる年代ではないし、英語スライドを作るのは初めてで苦労しましたが、日本人もカンボジア人も含めてのJICAプロジェクトの同僚達の協力と、カンボジア病院スタッフの熱意のおかげで無事に教材ができあ

がったときは本当にうれしかったです。

さて、滞在中の私生活のことを申し上げると、名所・旧跡に行くヒマなしでしたが、夜は屋台飯から高級レストランまで、カンボジア料理を堪能しました。中でもお気に入り、町中いたる所にある屋台で売っている様々な現地庶民御用達のカンボジア料理です。焼肉・焼き鳥といったおつまみ系はもとより、様々な種類、甘くて冷たいスイーツ、毎日レシピが変わるおふくろの味の煮物など多種多彩で、これをあれこれと選んでは路上のテーブル席に座り、夜風に吹かれてビール片手にほろ酔い気分であつたり、宿舎に持ち帰り食べましたが、どれもおいしい！機会があればぜひ皆様もカンボジアに行かれて味わってみてください。きっと気に入られることと思います。

最後になりましたが恐縮ですが、このような貴重な仕事の機会を私に与えていただきました、全日本労働福祉協会の皆様へ感謝いたします。本当にありがとうございます。

プロフィール

西野 りり子

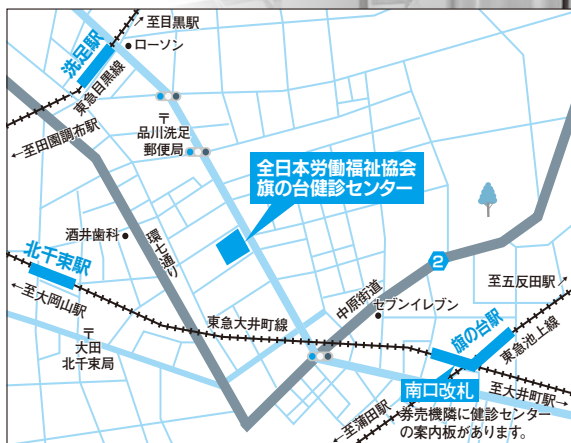
慶應義塾大学医学部卒業、医学博士
日本産科婦人科学会認定医
日本臨床細胞学会細胞診専門医、
マンモグラフィ検診制度管理中央委員会認定医、
日本産婦人科乳癌学会認定医、
日本医師会認定産婦人科

2002年より全日本労働福祉協会で健診およびがん検診業務に従事。2003年よりNPO「国境なき医師団」に参加。スリランカ・ソマリア・スーダンの途上国の紛争地・難民キャンプで産婦人科医師として活動経験あり。

デジタル式乳房
X線撮影装置



▲女子更衣室も
リニューアル!



旗の台 健診センター

リニューアルオープン

新しい健診センターの特徴

長年にわたりご愛顧いただいております「旗の台健診センター」が、平成24年5月にリニューアルオープンいたしました。受診者さまからのご意見も取り入れ、さらに健康診断を受けやすい環境にしました。今後も地域のみなさまのさまざまなニーズにお応えできますよう、スタッフ一同ご奉仕させていただきます。ご利用をお待ち申しあげます。

① ゆったりとした健診スペース

健診センター2階の健診待合室を拡大し、検査がよりスムーズに受けられるようになりました。

② 健康セミナーの開催

気になる病気や話題のトピックスを取り上げ、医師や保健師による健康セミナーを開催予定です。また、事業所や健保組合からのご要望にも対応してゆきます。また、個別の健康相談も承っております。

③ 検査項目の充実

基本的な健診項目に加え、様々な特殊健康診断、各種がん検診（胃がん・大腸がん・前立腺がん・肝臓がん・子宮がん・乳がんなど）へのより充実した対応が可能になりました。

④ 女性向け健診の充実

子宮がん、乳がん検査専用スペースを拡大しました。女性更衣室も拡大し、女性の方に安心・リラクセスして健診を受けていただける環境になっております。

地域のみなさまの健康増進、
病気の早期発見・早期治療の
お役に立てるよう
努力してまいります。



健診センター長
川口 毅

「健診で安心を」をスローガンにがんばっています。病気や要介護になって苦しまないためには、予防が大切です。病気や健康に関することならなんでも相談してください。

健診センターへのお問い合わせはこちら

TEL 03-3783-9411 (代)

FAX 03-5751-4315

E-mail keikaku@zrf.or.jp



鳥羽水族館

笑顔でお客様を迎えるために

しっかりした健康管理はお客様も職員も笑顔にする



ハイロアザラシ



カリフォルニアアシカ

会社の紹介

鳥羽水族館は1955年、わずかな土地に4つの天然水族館でスタート。海や川の生きものたちの飼育を通じて、命の尊さや自然環境の重要さを知ってもらうための博物館として、様々な活動や取り組みを行ってきました。また、その中で日本初、世界初へ挑戦するパイオニア精神も持ち続け、世界初スナメリの2世誕生、ラッコの国内初繁殖、ジュゴンの飼育世界記録の樹立など、数々の話題を提供するとともに、日本・世界各地で動物の調査研究も積極的にを行っています。

1990年には約7000坪の広大な土地に引越し、自然環境に合わせた12のゾーンに、現在約1000種250000点もの生物を展示する、国内屈指の水族館となっています。

動物たちの健康管理

小さくて鮮やかな魚から、体重800kgもあるアフリカマナティー、国内唯一の飼育展示となるジュゴンまで、飼育種類数は約1000種。この多くの動物たちの世話をし、健康管理を預かるのが飼育係や獣医たちです。

飼育係は毎日水槽を見回り、調子の悪い魚はいないか、動きや泳ぎはどうか、もの言わない生きものたちの声を聞き出す努力を続けています。また、エサの時間にはどんな食べ方をしたか、どれだけ食べたかなどは健康状態を判断するうえで重要なデータになるので、担当者は一頭一頭の顔を見分け(個体識別)、食べたエサの量を毎回ノ

トに記録していきます。さらに定期的な水質検査や消化状態をみるために便のチェック、時にはクレーンを使っての大きかりな体重測定なども実施します。

また、特別な治療や手術には2人の獣医が活躍します。採血や薬の投与のほか、胃カメラやエコー検査なども行います。動物たちにとっては心強い専属医となるわけですが、動物によっては獣医の顔や声を覚えていて、姿を見るだけで威嚇したり声を荒げることもあり、懸命に治療するのに嫌われてしまう(?)獣医はなんとも気の毒です。

今年、鳥羽水族館ではビーバーやアシカ、ペンギンなどに次々と赤ちゃんが誕生しました。生きものたちが繁殖活動をして新たな命が誕生するのは、生活環境がよいことや、彼らの健康管理がうまくできているという証でもあり、水族館にとって最もうれしいできごとのひとつです。

飼育係自身の健康管理

あこがれの職業としてよく挙がる飼育係の仕事ですが、働く環境や体力的には厳しいところもあります。空気タンクを背負った長時間の潜水掃除や重いエサ運び、中腰でのエサの準備は腰に負担がかかります。また、生きものたちの住む自然環境を再現した飼育場は、人間にとっては極端な環境だったりします。例えば、ジュゴンの飼育場は年間常に30度近くあり、夏の暑い中での作業はもちろんです。真冬には暑い飼育場から寒い屋外の作業に出て、また戻ってくるなど20〜30度の温度差のところを歩きまわることになります。

会社としての取り組み

職員が健康であってこそ、動物たちも生き生きし、たくさんのお客様を笑顔にできる。そんな思いから水族館では、年1回の法定健診に加え、「特定業務健診」として、高気圧健診(潜水担当・年2回)や、じん肺健診(設備担当・3年ごと)などを実施し、産業医による館内巡視において、作業環境の指導も受けています。

さらに平成22年度より、35歳以上の全職員に生活習慣病予防健診を実施し、管理職には付加健診も追加して、法定健診のデータに代用しています。健診で得られた情報は各個人の健康管理指針としても、検査項目の基準値を外れている場合には、改善の努力をしてもらうよう産業医より指示した結果、社内での健康管理に関する意識がさらに高まり、食事改善や運動等を実践する職員も増えてきました。

笑顔でお客様をお迎えするためには、健康なくしてはできません。動物の健康管理は飼育係や獣医が行っていますが、人間の健康管理は自ら行うという意識が重要です。これからは全職員一丸となり、水族館全体の健康管理に努めていきたいと思えます。

会社概要 株式会社 鳥羽水族館

住所 三重県鳥羽市鳥羽 3-3-6
URL <http://www.aquarium.co.jp/>
事業内容 水族館の経営、レストラン、売店の経営、水族館に関連した調査・研究活動



▲岩松院の本堂



八方睨み鳳凰図▶



名所名跡
特産品
の
紹介コーナー

長野県
上高井郡
小布施町

北信濃の名勝 “小布施”

小林一茶ゆかりの寺「岩松院」

長野県支部 徳嵩 秀人

「八方睨み鳳凰図」が信州の顔に

「八方睨み鳳凰図」とは、葛飾北斎が89歳のときに描いた絵で、畳21畳の大きさがある。長野県の小布施町にある岩松院の本堂大間の天井を飾るのが、この八方睨み鳳凰図。21畳敷きの天井いっぱいには翼を広げた鳳凰の画で、葛飾北斎の最晩年の作品といわれている。

鳳凰図は朱・鉛丹・藍などの顔料を膠水で溶いた絵の具で彩色されている。その絵の具代として150両、さらに金箔を4400枚使用している。160年たった現在でも、彩色は少しも変化していない。

畳21畳の大きさがあるこの絵は、一度見たら忘れられない。また、この絵には「かくし絵」が描かれているので、それを探してみるのも楽しみの一つかも知れない。

観賞方法にも特徴があり、静かに座って観賞するようになっているため、落ち着いた雰囲気の中で観賞できるのがいい。

小林一茶と蛙合戦の池

それとは別に、もう一つの岩松院の楽しみ方がある。裏庭にある小さな池には、桜が満開を少し過ぎた頃、たくさんのアズマヒキガエルが集まって産卵をする「蛙合戦の池」があり、誰もが一度は聞いた事がある小林一茶の句碑が池のそばに立っている。

「瘦せ蛙 まけるな一茶 これにあり」

これは、一茶が54歳のとき、病弱な初児・千太郎への思いを寄せた命乞いの句だが、その願いもむなしく、千太郎は1カ月たらずで他界したといわれている。ほかにも、関ヶ原の合戦で勇名をかせ、広島城の大名に

なった福島正則公の霊廟がある。

信州の夏は、朝、晩はとてさわやかである。寺のお堂は、午前中が最も涼しく、午後は風が堂内を通るので、暑さを忘れさせてくれてゆっくりと観賞することができよう。

外の直売所には、早出の桃やネクタリン、毎日の食卓に欠かせないナスやキュウリなど、夏の野菜がたくさん並んでいる。信州の旬の野菜をお土産にしたいかがだろうか？

また、小布施町には岩松院以外にも、葛飾北斎の美術館「北斎館」や古刹・名刹があり、歴史的遺産を活かしたまちづくりがされているため、ゆっくりと過ごしてみるのもこのまちの楽しみ方だと思ふ。



栗おこねと栗あんソフトクリーム

栗の町・小布施では、国内産の栗を使い、添加物なしで作られる料理やお菓子が多く、ホクホクの栗がたっぷり入った栗おこねもそんな名産のひとつ。

「竹風堂」創製名物の栗おこね(山家定食) (1,522円)は、1972年、竹風堂が小布施で初めてメニューに取り上げた自慢の栗おこねに、山籠の幸がセットになった、北信濃の郷土色あふれる定食。

他にもおすすめの「栗あんソフトクリーム」(300円)。栗の甘みがソフトクリームにびっぴたり！一度食べたら、忘れられない味に。

取材協力 株式会社 竹風堂
長野県上高井郡小布施町 973 ☎ 026-247-2026



アズマヒキガエル

生まれてから3~5年で卵が産めるようになり、またこの池に産卵に下りてくるので「必ずかえる」といって福蛙とも呼ばれる。